

電帳法対応の経費精算システムと コーポレートカード導入による 効率的な経費精算の実現と ペーパーレス化

株式会社BearTail
RPA事業部取締役事業部長 しの ほら けい すけ 篠原 啓輔
CS部 部長 いわ むら はる か 岩村 治香

当社の成り立ち

株式会社BearTailは2012年に筑波大学に在学していた代表取締役をはじめとした三名の学生が創業したベンチャー企業です。創業から「無駄な時間を省き、社会に貢献する事業」の立ち上げを会社の目標として、ITを利用したサービスの提供を進めました。

2013年からITと人力を統合し、領収書をスマートフォンで撮影すると、正確にデータ化を可能とするサービスプラットフォームを開発、これを利用する家計簿サービス「Dr.Wallet」を消費者市場に投入し、120万ダウンロード以上を獲得するビジネスとなりました。

2016年からこのサービスプラットフォームを利用した事業者向けのサービスとしてRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)型経費精算システム『Dr.経費精算』をリリースし事業拡大を図ってきました。

今後は、『Dr.経費精算』をコアに企業内の経費、出張、間接材手配等を集約し、

支援するビジネスプラットフォームとして拡大する方向で事業拡張を進めています。

RPA型ソリューションをベースに

当社の提供するRPA型経費精算ソリューション『Dr.経費精算』は下記のような特長を持った企業向けの立替経費精算サービスです。

- ① 利用するユーザー(従業員、承認者)が必要とする処理はスマートフォンで全て実施
- ② 専用のスマートフォンアプリを利用するためユーザーがトレーニング不要で即利用可能
- ③ 金額、利用日時、取引先等の税務上で重要な項目はデータが登録される事で、ミスを極力排除
- ④ 会社における各種精算規程に対する違反をシステムが監視し、ルール違反の排除が可能な統制強化機能
- ⑤ 電子帳簿保存法に対応しペーパーレス化が実現
- ⑥ クレジットカード、交通系ICカードの

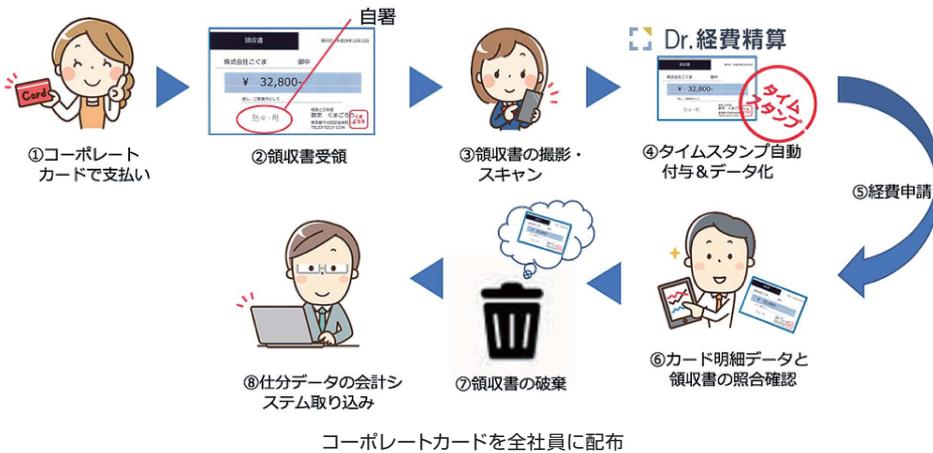
データとの連携による経費データの自動取得と入力ミスの排除

- ⑦ 各種アラートの提供による経理、管理部門における申請内容の精査業務の低減

これらの機能により『Dr.経費精算』は経費を精算する従業員と、経費を管理する経理部門、管理部門双方の負担を軽減し、削減できた時間を他の利益性の高い業務に集中させるなど企業の労働生産性の向上を支援し、業務改善が実現できます。

電子帳簿保存法への対応についても、精算プロセスで撮影された領収書画像にタイムスタンプを付与し保存画像として利用し、電子帳簿保存法に対応させるための、新たな業務プロセスを追加する必要がなく、領収書の原紙保存が不要になります。

今回JIIMAベストプラクティスを受賞した事例は、このDr.経費精算にコーポレートカードを連携させ、社員の費用立替をなくすと同時に、社内における現金の取り扱いをもなくすことで現金管理が不要になり、現金照合等の経理業務削減も可能とした



不要となり、同時に経費チェックについてもシステムが付与するアラートに基づいて確認することで、経費管理に費やす時間が最小となりました。コーポレートカードとの支払い一覧と照合された時点でその経費についてはシステムが自動的に精算対象外として処理します。

③ 電子帳簿保存法の特例を最大限活用して領収書破棄までの時間を短縮

領収書について当社では、第三者チェックをしています。登録された画像との照合が完了した時点でクレジットデータとの紐づけが完了しているものは、その場での破棄が可能です。法令で求められている一時的な保存も不要となり、整理の手間がなくなりました。

④ モバイルSuicaの活用によるICカードタッチレス/乗車履歴の自動取得

モバイルSuicaが利用可能な端末を社員に配布することで、ICカードをタッチすることなく、乗車履歴を取得することが可能になりました。

⑤ コーポレートカード導入に合わせた業務プロセスの採用

コーポレートカード導入と、第三者チェックによるチェックプロセス運用のため、導入効果を最大化するよう検討を行いこれま

ものです。

カード連携で経費関連業務80%減

当社においては、RPA型の経費精算システムDr.経費精算をこれまでも利用しており、従来経費精算に費やす時間を当初のスプレッドシートベースの経費精算を実施していた時に比較し75%以上の削減に成功していました。

さらに、コーポレートカードを全社員に配布し、Dr.経費精算に連携することで通常、電子帳簿保存法で要求される定期検査までの領収書保管も不要となりました。また、社員の立替経費精算もほぼなくなることで管理部門は小口現金を管理する必要がなく、経費関連業務に費やす時間を当初と比較して80%以上も削減しました。これにより管理（経理）部門は経営支援などにより知的業務へのリソースの振り分けを可能としました。

削減に成功した要因としては下記を考えています。

① コーポレートカード払いを中心にしてキャッシュレス経費精算を実現

従業員はDr.経費精算で領収書をスマートフォンから撮影するだけです。

撮影された画像を基に入力代行オペ

レータがデータ化するため、従業員は特別な入力作業を行う必要がありません。

撮影された領収書画像にはシステムがタイムスタンプを付与することでそのまま税務証憑として保存されます。これにより原紙の保存は一定条件の下で不要となります。

コーポレートカードを利用した場合、社員も立替えの必要がなく、全社でのキャッシュレス化を実現しました。

② コーポレートカードとのデータ連携による金額等チェック作業の最小化を実現

従業員からの申請経費はクレジットカード会社から自動取得したデータと紐づけされています。そのため管理部門は内容の確認を行うだけで、会計へ申請することが可能です。経費の払い戻しがほとんどないために、従業員単位の支払い調書作成は



①モバイルSuicaの徹底活用



項目	金額
岩本町-新富田	¥216
新富田-新富田	¥216
岩本町-丸の内	¥174
丸の内-高田馬場	¥95
高田馬場-四ツ谷	¥165
物販	¥800
四ツ谷-秋葉原	¥154
物販	¥198
物販	¥348
物販	¥609
物販	¥444
物販	¥206

②デイリーで乗車履歴を自動取得

モバイルSuicaによるICカードタッチレス

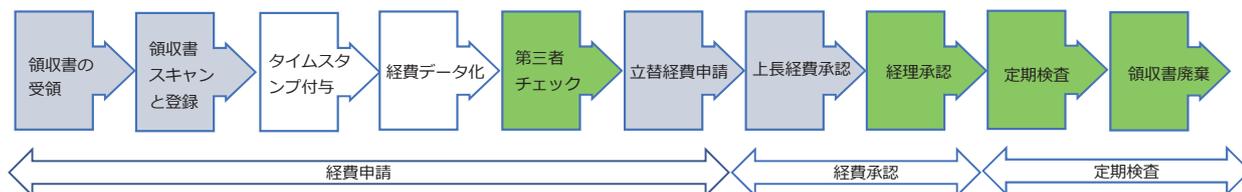


図1 従来の経費精算業務プロセス

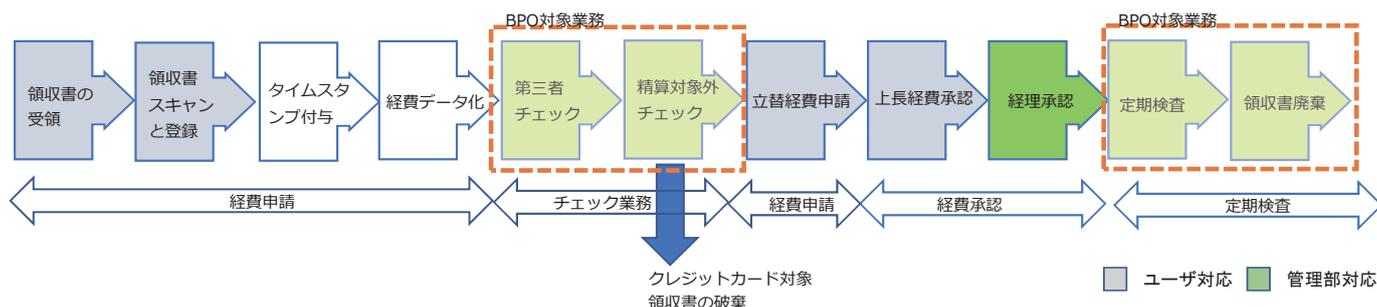


図2 改善された経費精算業務プロセス

でのプロセスを変更しました。

運用プロセス

(1) 従業員は受領した領収書をスマートフォンで撮影し、データ化依頼をすると同時に、登録した領収書を専用封筒に入れて管理部門に送付します。この時にコーポレートカードを利用した経費の領収書については、その時に受領したコーポレートカードの利用証明を一緒に送付する事が求められます。封筒には、従業員名と封入した領収書枚数を記載して、封筒を封緘して管理担当者に送付します。



(2) 管理担当者は受領した領収書の枚数を確認して、封筒に記載されている枚

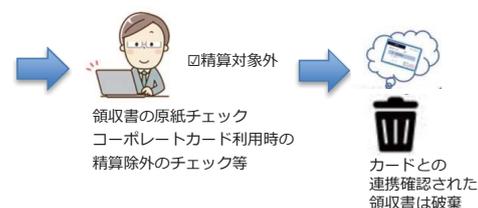
数と合致したら受領の証明としてサイン(又は押印)をします。もしこの時点で枚数に差異があれば管理担当者は再封緘して枚数相違として従業員に返送します。この受取完了までは従業員の責任範囲として定義しています。



(3) 従業員は、受領確認を得た経費が申請可能となります。コーポレートカードを利用した経費については、クレジットカードデータとの連携を確認した上で経費申請します。連携されている経費についてはシステムが自動的に精算対象外として登録します。登録経費については、事前に従業員単位で設定された承認プロセスに従い承認プロセスが進みます。承認完了した経費は管理担当者に送付されます。



(4) 従業員からの経費申請は全ての承認を受けた後に管理担当者に送付されます。管理担当者は受信した経費申請に対応する領収書を取り出して、個々の領収書に改ざんなどがいないかを確認し、また申請された経費にルール違反のアラートがないかを確認します。同時にコーポレートカード利用の領収書については、精算対象外としてチェックされているかを再度確認します。全ての確認が完了した後に、経費として最終の承認を与え、コーポ





レートカードの利用領収書は破棄し
ます。その他の領収書があった場合は、
保管箱に保管します。

今回のコーポレートカード導入にあたり、
上記のプロセスを検討・採用していますが、
プロセス自体は現在も改善検討を進めて
います。より使いやすく、確実な統制が可
能であるプロセスとして実証した上で、Dr.
経費精算をご利用頂いているお客様にカー
ド連携プロセスを提供していく予定です。

また今後の計画として、領収書のオー
ディット業務（監査）をBPOサービスとして
提供していく事も視野に入れていま
す。このサービスについては、提供するための
プロセスを実証するとともに社内における
確認としても運用を行っています。

業務プロセス変更による効果

経理担当は約五分の一、営業担当ほか

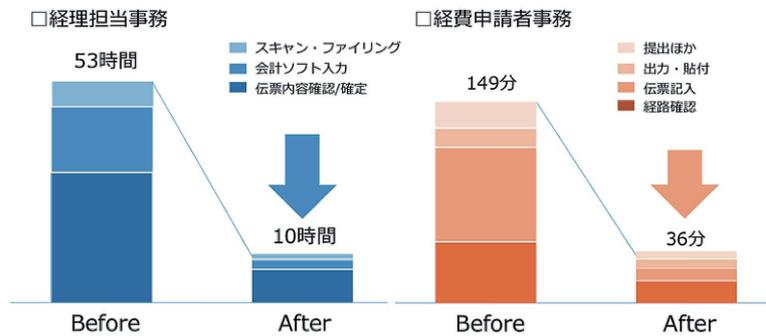


図3 短縮された時間

申請者は約四分の一以下に経費精算関連
の業務時間を短縮できました。

社内における小口現金などの取り扱い
がなくなり、小口現金管理等の業務が不
要となり経理部門、管理部門における負担
が軽減できました。

立替経費精算業務における管理部門に
よるルールチェック等、経費の内容確認に
ついては、Dr.経費精算のルールチェック
機能を利用することでほとんど不要となっ
ています。これに加えて精算が必要となる

経費が大きく軽減され、さらに管理部門
の負担が小さくなりました。

現在は営業活動において、積極的に運
用の成功事例を各社に展開しております。
結果として一定の賛同が得られ、弊社成
功事例と同様の運用を始める企業が増え
てきております。引き続きお客様に対して
弊社で得られたノウハウを提供する次第で
す。また、BPOサービスを今後展開してい
くことで、チェック業務の効率向上に貢献
していく予定です。

sense121

好きな写真と文字による
世界に一つの贈り物専門店

sense121 (センスイチニイチ) とは…

株式会社アピックスの提供するパーソナライズドワイン・吟醸酒のe-shoppingサイト名称です。
企業・個人のパーソナライズド需要として、「お名前入リラベル」をあしらったお洒落なお酒の
ネットショッピングが可能になりました。酒造メーカー・酒販店から一歩離れた視点で、ギフト・ノベル
ティ市場に挑戦します。

APIX
株式会社 アピックス

■ 本 社
〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2
TEL.(06) 6271-7291(代) FAX.(06)6271-7296
URL <http://www.apix.co.jp> E-mail info@apix.co.jp

■ 東京支店
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 新富町堂和ビル
TEL.(03)5879-7291(代) FAX.(03)5879-7296
Online shopping <http://www.sense121.com/>

IS 612404